

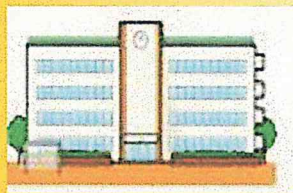
# 流山市の小中一貫教育Q&A

(平成27年11月改訂)

## 小中一貫した教育を進める形



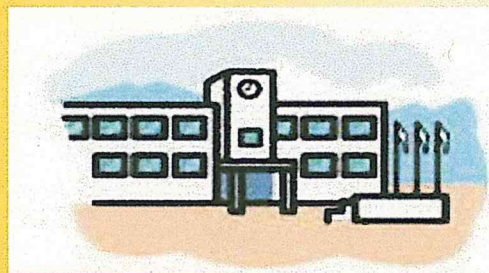
連携校型



小中近接型



小中併設型



流山市教育委員会



流山市教育委員会では、学力・気力・体力の「三力（魅力）ある流山の教育」を一層推進するため、小中一貫した教育を進めています。この冊子は、地域の方々や保護者の皆様、学校関係者の方々に理解していただくためにQ&Aをまとめたものです。

流山市の子どもたちのために、中学校区で一体となった9年間の連続した教育環境づくりの推進に、ご理解・ご協力をお願いいたします。

**Q** 流山市の小中一貫教育とは、どのようなものですか？

**A** 流山市で進めている小中一貫した教育は、新しい特別な教育システムではなく、今まで取り組んできた小中連携した取り組みを、発展・充実させたものです。心理的、身体的に不安定な成長期において、学習や生活指導の継続性、系統性のある教育を推進するものです。

平成27年4月に開校した「おおたかの森小中学校」は小中一貫校ではなく、小学校と中学校が並んで建っている小中併設校です。学校の組織は小中学校それぞれにあり、教育の内容も小中学校別々に計画されています。

流山市では9つの中学校区で、子どもたちの「小中合同のあいさつ運動」「部活動交流」「教職員の合同研修会」など、それぞれの特長を生かした小中一貫した教育を進めていきます。

#### ○効率的な学習カリキュラムの編成

- ・児童生徒の交流、系統性を重視した一貫性のある教育活動を進めます。
- ・キャリア教育、特別活動、技能教科など、接続を円滑に進めるための効果的なカリキュラムの編成を進めます。

#### ○児童生徒、教職員の連携・協働

- ・小中学校の児童生徒、教員の効果的な活用を図ります。
- ・小中学校の児童生徒、教職員の人的交流、柔軟な人員配置を積極的に進めます。

- ・小中の先生のチーム・ティーチングによる「きめ細かな指導」を進めます。
- ・学力観や指導観等の共有化を図り、わかる授業の実践に努めます。

### ○授業形態の工夫

- ・学校規模等、学校の実態に応じて取り組んでいます。発達段階を考慮し、教科の専門性を生かしながら学習指導の充実を図ります。
- ・教科の専門性を生かし、中学校の先生の小学校での出前授業、小学校での学級の交換授業、小学校5、6年生での教科担任制等の導入を進めます。

### ○「中1ギャップ」の防止

- ・学校環境（文化・風土・習慣）の急激な変化を防ぎます。
- ・交流を活発にし、わかりあえる、効果的な生活・学習集団づくりを進めます。
- ・学校、家庭、地域が一体となって、小中一貫した教育の環境づくりを進めます。

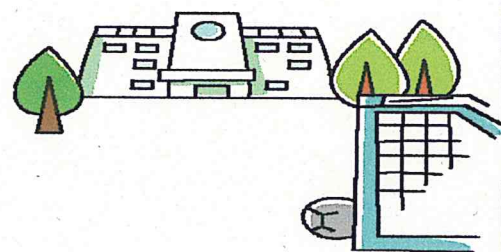
Q 小中一貫した教育の成果として期待できるものは何ですか？

A 次のようなことが成果として期待できます。

- ・学校独自の交流授業や、先生の交流等で小学校のきめ細かな指導と中学校の教科の専門性を相互に学び合うことで、指導力の向上が図られ、学力の向上等が期待できます。
- ・小中の子どもたちが交流することで、自分の役割や立場を自覚し、自尊感情を高め、心の成長を促すことができます。中学生の小学校での学習サポート、部活動交流、小学生の体験入学など、交流の機会も増えつつあります。



- ・小学校5、6年生から中学校でのきまりを意識した取り組みを進めることにより、落ち着いた学校生活が送れます。
- ・児童期から思春期の子どもたちの多感な時期に起こる問題（不登校やいじめ等）に、教職員が連携することで、より効果的に対応することができます。
- ・様々な課題に直面し心が不安定になりがちな中学生も、幼い子どもと接する際には優しい面を見せることが数多くあります。日常的に異年齢交流が行われることで、中学生が年長であることを自覚することにつながります。
- ・小中学校が連携・協力して、これまで以上に地域との関わりを深めることにより、地域と連携した教育をより推進することができます。地域での清掃活動、あいさつ運動など、小、中学校の児童会、生徒会が地域と連携して取り組む姿が見られます。



Q 中学校区には、どのようなタイプがあるのですか？

A 流山市では、中学校区の特長に応じて3つのタイプがあります。

- ・小中併設型（おおたかの森小中学校）

同一の敷地に小中学校が併設しています。小中学校が同一の敷地内にあるので、日常的に連携を進めています。

- ・小中近接型（西初石小中学校、南流山小中学校）

小中学校が近接しています。小中学校が近接しているため、その立地条件を生かして連携を進めています。

- ・連携校型（上記小中学校以外の学校）

中学校区ごとに小中学校が連携し合い、それぞれの地域の特性や小中学校が今まで築いてきた良さを生かし、学区ごとに特長のある取り組みを進めています。



Q 小中学校が離れている連携校型では、小中一貫した教育が難しいのではないのでしょうか？

A 教職員の情報交換を通しての子ども理解、出前授業や小学校での教科担任制導入等のカリキュラムの工夫、夏休みの部活動交流など、距離は離れていても子どもたちの成長のために様々な取り組みを行っています。

Q 流山市の小中一貫した教育の歴史について教えてください。

A 流山市では、以前より各中学校区で部活動での交流、小学校へのボランティア活動、小学生の体験入学等、独自の交流を実施していました。

平成14年に、学校の先生による小中学校交流「小中学校教員留学体験」が始まりました。その後、職場体験学習で、希望する小中学生がお互いの学校で職場体験を実施するという交流を行ってきました。

平成22年には「小中一貫教育推進準備委員会」を立ち上げ、それぞれの中学校区での取り組みをさらに発展させてきました。

平成27年4月に開校したおおたかの森小中学校では、今まで各中学校区での実施してきた取り組みを参考に、小中併設校での小中一貫した教育を進めています。今後は、併設校での実践の成果について市内各中学校区に広げていく予定です。

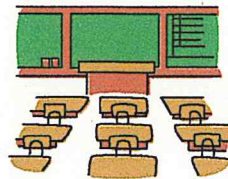
Q 国の小中一貫教育の動きはどうなっていますか？

A 平成17年10月の中央教育審議会答申において、「義務教育を中心とする学校種間の連携・接続を改善するための仕組みについて種々の観点に配慮しつつ十分検討する必要がある。」という趣旨の提言がなされています。

また、平成19年6月に改正された学校教育法においては、各学校段階の目的・目標規定が改められ、新たに義務教育9年間での目標が定められました。

Q 小中一貫した教育は6・3制を否定するものなのですか？

A 小中一貫した教育は6・3制を否定するものではありません。子どもの成長発達の早期化等から見ても、小学校と中学校を分けて考えるのではなく義務教育9年間でひとつの大きな枠組みとして捉え、「15歳までにどんな子どもを育てるか」と考えるのが「小中一貫教育」です。



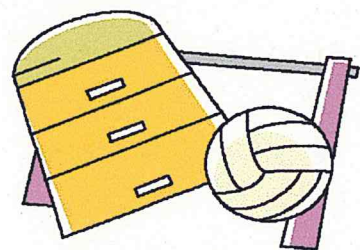
Q 小中一貫した教育ではどのような子ども像を目指していますか？

A 児童生徒が自立できるように、流山市では、学力・気力・体力の三つの柱を基軸として「三力（魅力）ある流山の教育」を進めています。小中一貫した教育では、特に次の三つのことに力を入れています。

- ・小中学校の教員の連携により指導力を向上させ、確かな学力を育てます。
- ・児童・生徒の交流を通して、豊かな心を育てます。
- ・地域による協働の取り組みで、教育力向上を図ります。

Q 流山市の小中一貫した教育はどのように実施されるのですか？

A 中学校区を単位とする小中学校で連携をして、小中一貫した教育を進めています。学習指導要領に基づき、小中学校の教員の協働体制のもと連携・交流を実施しています。



Q 校種を越えて授業を行う場合、教員免許の扱いはどうなりますか？

A 教科の指導については、小中学校それぞれの教員免許が必要です。流山市では交流の範囲が広がるように、兼務辞令も発令しています。ティーム・ティーチングでの授業補助や教科以外の授業（道徳や総合的な学習の時間など）では、免許がなくても指導可能です。



Q 小学校から様々な授業形態を取り入れるのですか？

A 学校規模、指導の実態等、各小学校の実態に応じて、出前授業、交換授業、教科担任制など様々な授業形態での学習を進めています。

Q 中学校入学は心機一転の機会と考えますが、いかがお考えですか？

A 節目としての中学校入学は大切な時期だと認識しています。子どもたちが心機一転の機会と捉えられるような学校行事を工夫するなどの配慮をしながら、指導支援の面で、小中学校が連携を進めています。

Q 小中一貫した教育の実施によって、なぜ学力が向上すると言えるのですか？

A 小中学校教員のチームティーチングや相互乗入授業により、小学校高学年児童の知的好奇心を充たしたり、中学生の定着不十分な内容を補充したりするなど、個に応じた指導の充実により、学習意欲や学力の向上を図ることができると思います。  
また、小中学校の枠を越えた先生方の交流・研修・情報交換を行うことで、指導により良い効果が期待されます。

Q 小中一貫した教育の導入により、現場の先生の業務負担が増え、モチベーションが下がるのではないですか？

A 小中一貫した教育の推進により業務負担が急増しない配慮は必要だと考えますが、全教職員協働で教育を進めるため、モチベーションが下がることはないと考えています。また、小中学校の教職員が互いに交流し学び合うことで、義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識改革を図れ、授業の質が上がることも期待できると考えます。